

# 学内の消毒用アルコールの使用率 についての研究

安藤 七海([21811015na@tama.ac.jp](mailto:21811015na@tama.ac.jp))

## 1. 目的

昨今猛威を振るっている新型コロナウイルス、その対策として消毒用アルコールによる手指の消毒が推奨され、多くの場所に設置されている。その使用率が場所ごとにどう違いが出るのか計測し、使用率の低い原因や工場方法を見つける。

## 2. 内容

指定した時間内の通行人数から消毒用アルコールの使用率を割り出す。

## 3. 方法

水、金曜日の昼休み(12:10~12:59)に指定した箇所の通行者を消毒用アルコールを使用したか否かで分けてカウントする。指定した箇所は4種類、それぞれ改善案の施行前後で3回ずつ計測する。

4か所×(施行前3回+施行後3回)=総観測回数 24回

## 4. 結果

全ての実験箇所で改善案の優位性が確認された。

## 5. 考察

使用率の向上のためには、消毒用アルコールのスタンドを手押し式ポンプではなく、自動や足踏み式に替える、団体の先頭を歩く人が消毒用アルコールを使用する。

ことで改善できることがわかった。今回はセンサーライトを使用した視覚による刺激を通行者に与え消毒を促したが、音を使用した聴覚的な誘導も効果的である。